



[プライマネージ]

PRIMANAGE

CSS Open Package Series for Enterprise Resource Planning

ソフトウェア部品体験版 インストールについての Q&A

ソフトウェア部品体験版の削除方法

1. 概 要

本マニュアルは、ソフトウェア部品体験版/製品版を、データごと完全にアンインストールする内容です。

データを残したい場合は、体験版/製品版のみアンインストールし、データベースの削除を行わないでください。作業は、データベースの削除、ソフトウェア部品のプロテクションキー削除、ソフトウェア部品の削除、ソフトウェア部品関連フォルダ削除の順に行います。

データベースは、ORACLE、MS SQL Server それぞれ削除方法が異なりますので、使用データベースに合わせて実行してください。

2. データベースの削除

2-1 ORACLE の削除

ORACLE をアンインストールする場合は、データベースを停止し、Oracle Installer を起動し、アンインストールを実行してください。

その後、BSS_DB フォルダを削除します。

ORACLE をアンインストールしない場合は、サーバermanージャーを開き、以下のコマンドを発行しテーブルスペースをドロップします。

その後、BSS_DB フォルダを削除します。これを実行しないでフォルダを削除しますと、ORACLE データベースが正常に動作しなくなりますのでご注意ください。

(下記のコマンドをコピーしてください。)

```
sqlplus bss/bss000
drop tablespace dbacs including contents;
drop tablespace dbbhn including contents;
drop tablespace dbgcu including contents;
drop tablespace dbgks including contents;
drop tablespace dbgls including contents;
drop tablespace dbgmu including contents;
drop tablespace dbhbi including contents;
drop tablespace dbimp including contents;
drop tablespace dbjnj including contents;
drop tablespace dbkbi including contents;
drop tablespace dbkdk including contents;
drop tablespace dbkgk including contents;
drop tablespace dbkss including contents;
drop tablespace dbpdb including contents;
drop tablespace dbpjk including contents;
drop tablespace dbren including contents;
drop tablespace dbsfc including contents;
drop tablespace dbsks including contents;
drop tablespace dbsri including contents;
drop tablespace dbstk including contents;
drop tablespace dbsys including contents;
```

2-2 MS SQL Server の削除

SQL Server をアンインストールする場合は、データベースを停止し、「コントロールパネル」→「プログラム(アプリケーション)の追加と削除」で SQL Server 2000/2005 の削除を実行します。

SQL Server 2000 は、データベースを停止してからアンインストールします。停止は、「スタート」→「プログラム」→「Microsoft SQL Server」→「サービスマネージャ」で行います。

SQL Server をアンインストールしない場合は、「スタート」→「プログラム」→「Microsoft SQL Server」→「Enterprise Manager」または、「Microsoft SQL Server 2005」→「SQL Server Management Studio」を起動します。

ツリーをたどり、「データベース」を開きます。

データベースに「BUHINDB」が作成されていますので削除します。

同様に、「セキュリティ」→「ログイン」を開き、ユーザー「bss」を削除します。

その後、「マイコンピュータ」を開き、ソフトウェア部品をインストールしたドライブの「BSS_DB」フォルダを削除します。

2-3 IBM DB2 の削除

DB2 をアンインストールする場合は、「コントロールパネル」→「プログラム(アプリケーション)の追加と削除」で DB2 Universal Database の削除を実行します。

DB2 をアンインストールしない場合は、「スタート」→「プログラム」→「IBM DB2」→「汎用管理ツール」→「コントロール・センター」を起動します。

ツリーをたどり、「データベース」を開きます。

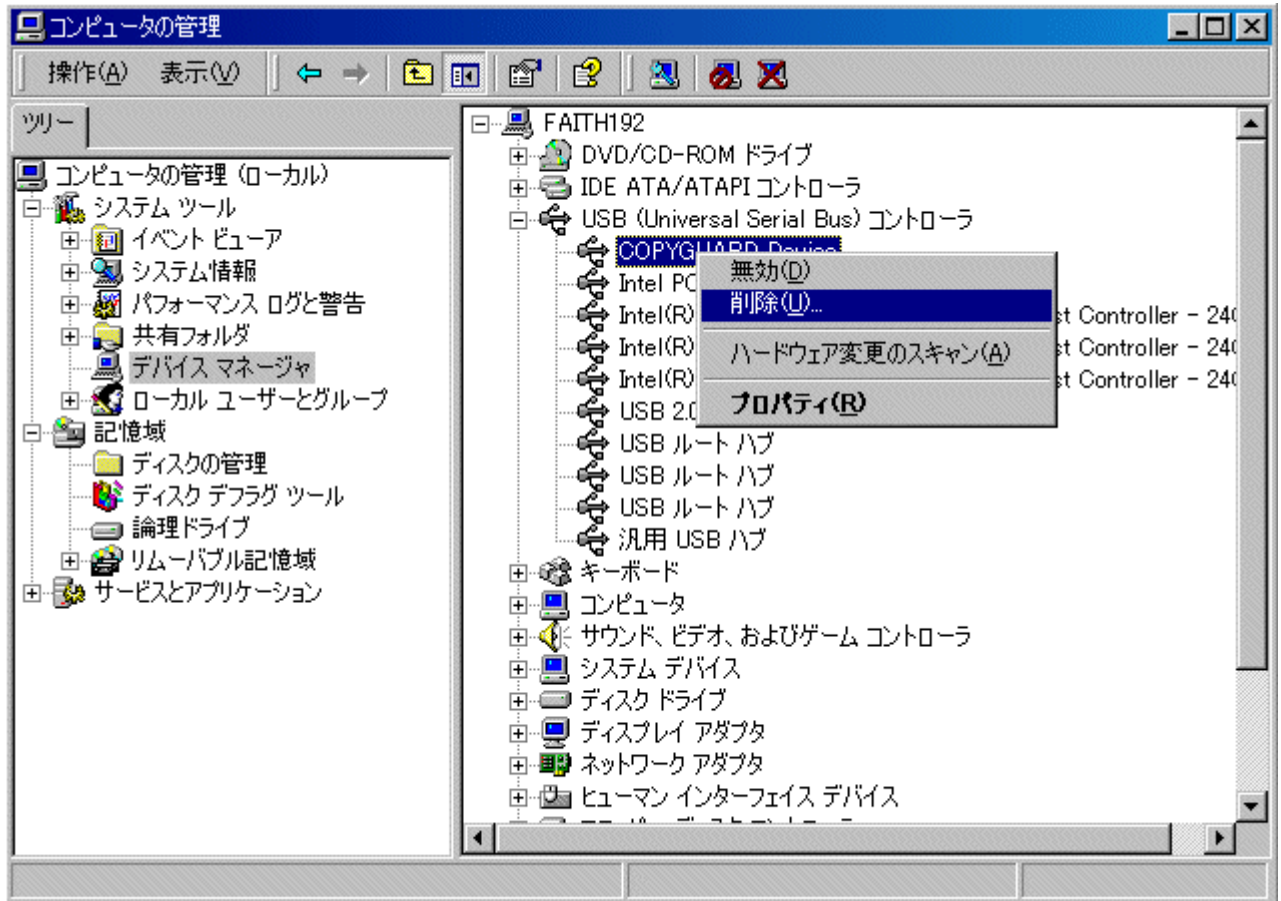
データベースに「BUHINDB」が作成されています。

「BUHINDB」の上で右クリックをし、「停止」をクリックします。停止後、「除去」を行い、データベースを削除します。

その後、「マイコンピュータ」を開き、ソフトウェア部品をインストールしたドライブの「DB2」フォルダを削除します。

3. プロテクションキーの削除(製品版対象)

コントロールパネルの管理ツールから、コンピュータの管理を開きます。
画面左のシステムツールの中の、デバイスマネージャを開き、USB コントローラの「COPYGUARD」を削除します。



4. ソフトウェア部品の削除

ソフトウェア部品のメニューは終了している状態で、マイコンピュータを開きます。
ソフトウェア部品をインストールしたドライブにあるフォルダ、¥BSS_PACK¥bat フォルダを開きます。

「bssDelFile.exe」ファイルをダブルクリックし、実行します。自動的に終了し、画面が元に戻ります。

その後、コントロールパネルのプログラム(アプリケーション)の追加と削除から、『PRIMANAGE2007』を削除します。

ご使用のデータベースによって、下記のように名称が異なります。

DB2 UDB 版は、『PRIMANAGE2007 DB2』

Oracle 版は、『PRIMANAGE2007 ORACLE』

SQL 版は、『PRIMANAGE2007 SQL Svr』

* 体験版は、上記名前の後ろに『Evaluation』がつきます。

5. フォルダの削除

フォルダの削除

以下のフォルダを削除します

BSS_PACK

BSS_DB

OSX

データベースフォルダ (DB をアンインストールした場合)

以上で削除は完了です。

5. クライアントの削除

クライアントは、上記 3. 4. 5. を実行してください。